



講座15：市民活動について学ぶ《コミュニティビジネスを知ろう！》

12月6日（土）、印西市市民活動支援センター主催で、同センター活動室にて「ビジネスで地域活性化？コミュニティビジネスってなんだろう」をテーマに学びました。講師は、センターの指定管理者である街活性室㈱の代表取締役と、市民活動から起業した合同会社カモスミの共同代表のお二人です。

まず、代表取締役から「ソーシャルビジネス」について説明がありました。これは、企業利益よりも社会的利益を重視し、地域課題や環境問題の解決を目指す事業で、街活性室㈱は関東を中心に展開しています。



次に「コミュニティビジネス」や「地域ビジネス」について、市民が主体となり地域資源を活用して課題を解決する事業が紹介されました。事例として、

BABAlab（ババラボ）：多世代女性が「孫育てグッズ」を製造販売し、高齢者雇用や母親の参画を促進。収入源は物品販売や講座収入など。

Choinaca（チョイナカ）：趣味やスキルを活かした「月3万円ビジネス」講座を開催し、駅前空き店舗の活用など地域経済を活性化。

続いて、市内の若者が立ち上げた合同会社カモスミの共同代表から、起業のきっかけや活動内容（戸神ファスタ、個人店マップ作成、芸術家の集まる場づくり）について説明がありました。法人化の理由として、NPOより設立が容易である点も挙げられました。



今回の学びは、市民が主体となり地域課題に取り組むビジネスの可能性についてです。特に、若い世代が不安を抱えながらも行動し、ワークショップなどで人を巻き込む姿に大きな力を感じました。